

1. 治水施設の整備目標

- 利根川・荒川は、200年に1回の頻度で発生する洪水^{注1)}に対応することを目指した治水施設の整備を実施。(30年間に発生する確率は14%)

(注1)利根川では、カスリーン台風規模の洪水に相当。

2. 治水施設の整備状況

- 利根川(群馬県八斗島地点)における治水施設の整備状況は、昭和23年アイオン台風、昭和24年キティ台風、平成10年台風5号の洪水には対応できているが、昭和22年カスリーン台風規模の洪水には対応できていない。
- 荒川における治水施設の整備状況は、昭和33年狩野川台風、昭和57年台風18号、平成11年熱帯性低気圧の洪水には対応できているが、昭和22年カスリーン台風規模の洪水には対応できていない。

カスリーン台風規模の洪水が発生した場合には、氾濫する可能性がある。

3. 浸水想定を検討対象洪水

まずは、200年に1回の頻度で発生する洪水について浸水想定を実施

- それを上回る規模の洪水が発生した可能性が高いことを示す記録がある。
- しかし、その洪水に関するデータが少なく、洪水流量の推定精度が低い。

4. 洪水規模による感度分析

歴史的な大規模洪水の記録を踏まえ、洪水流量を変化させ感度分析を実施

ない

感度分析の結果、被害状況が著しく異なることがないか確認

ある

200年に1回の頻度で発生する洪水を対象

200年に1回の頻度で発生する洪水と、より規模の大きな洪水も対象

左右岸、上下流さまざまな地点に堤防決壊箇所を想定

5. 応急対策検討用の浸水想定抽出

- 各ケースにおける被害の状況・程度を把握
- 応急対策を検討するための浸水想定ケースを抽出

6. 予防対策検討用の浸水想定作成

- 各ケースの浸水状況を重ね合わせ、予防対策を検討するための浸水想定を作成

浸水想定・被害想定から大規模水害時の課題を抽出

大規模水害対策の検討